

## 消化器センター 内科部門（消化器・肝臓内科）

### 1. スタッフ（2013年4月1日現在）(院内勤務者のみ)

科 長（教 授） 菅野健太郎  
 副科長（准教授） 玉田 喜一  
 外来医長（准教授） 大澤 博之  
 病棟医長（講 師） 畑中 恒  
 医 員（教 授） 山本 博徳  
 （富士フィルム国際光学医療講座兼務）  
 医 員（准教授） 長嶺 伸彦（救命救急センター兼務）  
 医 員（准教授） 佐藤 貴一（内視鏡部兼務）  
 医 員（准教授） 磯田 憲夫  
 医 員（准教授） 武藤 弘行  
 医 員（講 師） 富山 剛（健診センター兼務）  
 医 員（講 師） 砂田圭二郎  
 （富士フィルム国際光学医療講座兼務）  
 医 員（講 師） 矢野 智則  
 医 員（助 教） 佐藤 博之  
 病院助教 吉澤 充代（健診センター兼務）  
 病院助教 大竹 俊哉（内視鏡部兼務）  
 病院助教 牛尾 純  
 病院助教 林 芳和  
 病院助教 三浦 義正  
 病院助教 新畑 博英  
 病院助教 渡辺 俊司  
 病院助教 井野 裕治  
 シニアレジデント 9名

### 2. 診療科の特徴

上部および下部消化管腫瘍の早期診断、Image Enhanced Endoscopy（IEE）を用いた進展度診断、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、慢性肝炎のインターフェロン治療、肝臓癌早期発見から腹腔鏡下治療、胆膵系腫瘍の進展度診断や内視鏡的ドレナージなど、広範な領域に渡って基本的診断・治療から最先端の内視鏡治療まで行っている。特にダブルバルーン小腸鏡（DBE）による診断・治療においては県外からも数多くの患者紹介を受けている。また小腸を含めた消化管出血や総胆管結石など緊急内視鏡治療が必要な症例に対しては、24時間体制で対応し、地域の中核病院としての役割も担っている。

外来診察は若手医師が初診を担当し、患者の症状や病態に応じた検査を組み、再診は専門性に応じて各臓器グループの専門医が対応している。また、緊急度や重篤度に応じて、緊急検査や緊急入院を迅速に行い対応に遅れないように心掛けている。入院診療は、研修医1名に対して上級医2名以上が付く診療チームで対応している。一週間の入院患者数は平均35名前後、その5割は

緊急入院患者であり、クリティカルパスの有効利用などにより入院期間の短縮に努めている。

また、ESDやDBEなどの最先端の内視鏡検査および治療では世界をリードする立場であり、国内外からの多くの研修・見学の受け入れを行っている。

#### ・認定施設

日本消化器病学会認定施設  
 日本消化器内視鏡学会指導施設  
 日本肝臓学会認定施設

#### ・認定医

日本内科学会	指導医	菅野健太郎	他14名
同	総合内科専門医	富山 剛	他5名
同	認定内科医	菅野健太郎	他36名 (内派遣8名)
日本消化器病学会	指導医	菅野健太郎	他12名 (内派遣1名)
同	専門医	菅野健太郎	他23名 (内派遣3名)
日本消化器内視鏡学会	指導医	菅野健太郎	他15名 (内派遣1名)
同	専門医	菅野健太郎	他25名 (内派遣2名)
日本肝臓学会	指導医	磯田 憲夫	他2名
同	専門医	磯田 憲夫	他7名 (内派遣4名)
日本超音波医学会	指導医	玉田 喜一	他5名
同	専門医	玉田 喜一	他7名 (内派遣2名)

### 3. 診療実績・クリニカルインディケーター

#### 1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新患2,654 再診32,448 紹介率63.4%

#### 2) 入院患者数（病名別）

新入院患者数：1,960人

肝疾患	入院数	上部消化管疾患	入院数
肝細胞癌	416	胃がん	191
慢性肝炎	126	胃食道静脈瘤	106
肝硬変 (肝細胞癌非合併例)	123	胃潰瘍	57
自己免疫性肝炎	22	食道癌	30
その他の肝炎・ 肝障害	15	その他の食道疾患	22
急性肝炎	15	十二指腸潰瘍	21
肝膿瘍	13	上部消化管出血	10

肝嚢胞	9	十二指腸腫瘍性病変	7
肝不全	6		
劇症肝炎	2		
その他の肝腫瘍性病変	1		
<b>胆道・膵臓疾患</b>	<b>入院数</b>	<b>小腸・下部消化管疾患</b>	<b>入院数</b>
胆嚢・総胆管結石	120	大腸腫瘍	146
胆管癌	51	イレウス	28
急性胆管炎	38	ポイツーイエガース症候群	21
急性胆嚢炎	32	小腸出血	15
PSC	16	小腸狭窄	9
肝門部胆管癌	15	小腸腫瘍	5
胆嚢癌	11		
急性膵炎	49	クローン病	151
(うち重症急性膵炎)	16	潰瘍性大腸炎	49
膵癌	47	大腸憩室出血	43
IPMN	21	虚血性腸炎	15
慢性膵炎	18	感染性腸炎	7
		直腸カルチノイド	5
		大腸憩室炎	4
		小腸静脈瘤	1

3) 転科・死亡症例病名別件数

転科症例	症例数	死亡症例	症例数
胆嚢・総胆管結石・胆嚢炎	7	肝癌	9
膵癌	7	膵癌	4
食道癌・胃癌	7	肝不全	3
大腸癌	6	胆管癌	3
クローン病、潰瘍性大腸炎	6	胃癌	2
イレウス	5	劇症肝炎	2
白血病・悪性リンパ腫	4	直腸癌	1
胆嚢・胆管癌	3	その他	8
十二指腸腫瘍・小腸腫瘍	3		
虫垂炎	1		
消化管穿孔	1		
その他	28		

4) 主な検査、処置、治療件数

(いずれも内科施行分のみ)

A) 消化管関係

上部消化管内視鏡検査	5,333件
・食道静脈瘤結紮術／硬化療法	91件
・内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	219件
内視鏡的超音波検査 (含む細径プローベ)	
・食道、胃	213件
・静脈瘤精査	76件

大腸内視鏡検査	2,725件
・ポリペクトミー	480件
・ESD	123件
小腸内視鏡 (double-balloon endoscopy)	391件
小腸内視鏡下の処置、治療	143件
カプセル内視鏡	79件

B) 胆道・膵臓

ERCP	393件
ERCP下の処置および治療	
・経鼻胆道ドレナージ	86件
・経乳頭的胆道ステント留置術	141件
・乳頭拡張術	95件
・乳頭切開術	27件
・碎石術	141件
・膵胆管内超音波検査	30件
内視鏡的超音波検査 (EUS) (胆膵)	170件
超音波内視鏡下穿刺吸引術 (EUS-FNA)	14件
経皮経肝胆道ドレナージ (PTBD)	12件
ダブルバルーン内視鏡下逆行性膵胆管造影 (DBERP)	74件

C) 肝臓

腹腔鏡的肝癌治療	64件
慢性肝炎インターフェロン治療導入	28件

D) その他

腹部超音波検査 (外来患者のみ)	3,812件
------------------	--------

5) クリニカルインディケーター

(1) 治療成績

・上部消化管ESD	
胃 一括切除率	100% (183/183病変)
(断端陰性完全一括切除率	92.3% 169/183)
(側方断端陰性率	97.3% 178/183)
食道 一括切除率	100% (23/23病変)
十二指腸 一括切除率	87.5% (7/8病変)

・下部消化管ESD	
一括切除率	97.6% (123/126病変)
腫瘍サイズ平均 長径31.6mm	
(カルチノイドその他腫瘍は除く)	

- ・肝細胞癌に対する腹腔鏡的治療 (ラジオ波、マイクロ波含む)
  - 64症例、全例治療完遂、入院期間の変更を要す偶発症なし
- ・食道静脈瘤治療 (EVL)
  - 91症例、全例治療完遂、入院期間の変更を要す偶発症なし
- ・C型慢性肝炎インターフェロン (3剤併用) 治療のSVR率 (ウイルス排除率)
  - 治療終了後24週まで評価出来た11症例中10例でSVR (90.9%)

- ・総胆管結石 完全截石率 87.8% (94/107)  
 ※完全截石とは、一回の入院中に截石が完了した患者。

(2) 偶発症

上部消化管ESD

出血率 6.5% (14/214)  
 (内訳：食道1/23、胃13/183、十二指腸0/8)

穿孔率 2.8% (6/214)  
 (内訳：食道3/23、胃1/183、十二指腸2/8)

下部消化管ESD

出血率 1.7% (2/118人)

穿孔率 3.4% (4/118人)

ERCP後膵炎発生率 6.3%(25/393) うち重症 2件(0.5%)  
 (軽症23、重症 2)

(3) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

(別添の消内入院集計ファイル参照)

6) カンファランス

(1) 診療科内

消化管カンファ (毎週月曜日)

胆膵カンファ (毎週木曜日)

肝カンファ (毎週木曜日)

リサーチカンファ (各月)

(2) 他科との合同

消化器センター (内科・外科・病理) カンファランス

肝臓グループ (月 1 回)

胆・膵グループ (月 1 回)

下部グループ (週 1 回)

4. 事業計画・来年の目標等

日本消化器病学会の疾患データベースへの協力  
 外来移転と整備